

古代から現代に至るウイグル関連の歴史年表

紀元前 9 ～ 8 世紀頃	人類最初の遊牧騎馬民族スキタイ・サカが勃興し、中央ユーラシアを中心に活躍
前 3 世紀頃	匈奴の躍進が始まる
前 3 2 0 年頃	趙の武靈王（在位前 322～前 299 年）、兵士に胡服騎射を命ずる
前 2 世紀中頃	月氏（スキタイ・サカの末裔ともいわれる）、匈奴に追われ西遷
前 1 7 6 年	匈奴の単于（皇帝）が前漢の文帝に送った書の中に、楼蘭の名が見られる。この頃、匈奴は楼蘭、烏孫をはじめとする「西域三十六国」（一説では二十六国）を支配下におさめていた
前 1 4 1 年	前漢・武帝が即位
前 139～前 126 年	漢の武帝が張騫を西域に派遣
前 1 2 6 年	張騫が西域から帰国。西域事情を武帝に報告
前 1 2 1 年	青年将軍・霍去病（かくきょへい）が河西方面で匈奴を破る
前 1 0 9 年	楼蘭、前漢に攻められ降伏、楼蘭王が捕らえられる
前 1 0 2 年	李広利がフェルガーナ地方（大苑国）を破る
前 7 7 年	楼蘭王が漢の傅芥子に殺害され、新王が立ち、楼蘭を鄯善に改名する。漢の軍隊が伊循に駐留。※鄯善はトルファン郊外のピシャン
前 6 0 年	漢の西域都護府が置かれる
前 4 4 年	西匈奴が康居（現在のコーカンド）に向かったが自然災害で到着した者 3000 人といわれる。その後、烏孫を攻撃したがイシク湖南方で滞留、再起をはかる。
前 4 4 年	東匈奴は臣属した漢の庇護のもと、漢から王昭君を嫁される
西暦 8 年	前漢が滅び、王莽が「新」を建国、王となる
2 5 年	光武帝が後漢を建国
6 1 年	ヤルカンド（莎車）王の賢が殺され、鄯善国が支配地域を拡大する
8 9 年	北匈奴、西域に進出したが自然災害と戦闘で大敗北
1 2 3 年	『後漢書』では、北匈奴が西域とカザフスタンに本拠を置き、中国の史書から消える。その後、中央アジアのクルグズー帯を統治した
3 世紀ころ	ソグド商人、『三国志』に登場する
3 7 6 年	フン族（北匈奴）がアランを屈服させ、東ゴート族を襲撃 大軍となったフン族が黒海北岸にいた西ゴート族を襲う
3 7 8 年	東ローマ帝国の皇帝自らが出陣し、バルカンのトラキアでフン族の一員となった西ゴート軍と戦って敗北し、自らも戦死
3 8 4 年	フン族とアランがオーストリア、南ドイツ、北フランスを侵略
3 9 5 年	フン族、奴隷と家畜を得るためにペルシアに侵入して敗れ、北方の草原に帰る。この年、ローマ帝国が東西に分割
4 0 1 年	柔然、モンゴリアで可汗を称する

445年	フン族の王アッティラは共同の王の弟を殺して王に。東ローマ帝国のコンスタンチンノーブルを襲うが、城壁に阻まれて賠償金のみで撤退
447年	フン族の大王アッティラ、北フランスに侵入。西ローマ帝国に貢物を毎年 350 ポンドから 2100 ポンドに引き上げさせる
451年	西ローマ帝国と西ゴート族の連合軍がアッティラと戦うが、両者大損害を出す
452年	アッティラ、ローマを攻撃するが、ローマ教皇レオ一世の説得で本拠のハンガリーに帰る
453年	アッティラ死す。フン族崩壊
476年	西ローマ帝国滅亡
490年	高車王国・阿伏至羅、ソグド人商胡・越者を北魏洛陽に遣使
501年	トルファン盆地に麴氏高昌国が成立
5世紀中頃	楼蘭、北魏により征服される。鄯善王が捕らえられ楼蘭王国滅亡
5世紀以降	モンゴルがモンゴル高原。外モンゴルのセレンガ川上流域に興る
546年	突厥の首長ブミン（土門）、西魏に遣使
6世紀頃	北アジアに遊牧騎馬民族の突厥が勃興し、吐蕃が盛んとなる
610年	隋、ハミ（伊吾）を占領
626～627	東突厥支配下のモンゴリアで、九姓鉄勒諸部が反乱
627～628	玄奘、河西回廊を通過し、トルファンの麴氏高昌国にいたる
629～645	僧玄奘三蔵、インドへ求法の旅
632年	唐、ハミの西伊州を伊州と改める
644年	玄奘三蔵が楼蘭を訪れたときはすでに廃墟となっていた
7世紀頃	唐の玄奘三蔵がサマルカンドへ。ソグド人はゾロアスター教、ササン朝ペルシア文化を中国に伝えて、トルファン、ハミや敦煌周辺に聚落を形成。中央アジアのイスラーム化はじまる
8世紀頃	北アジアに古代ウイグル王国に興る。その後、安史の乱で唐王朝を支援して、シルクロード交易の利権を一手に握る
821年	唐より太公主がウイグルに嫁ぐ
840年	ウイグル帝国、騎馬民族のクルグズによる侵攻で敗北、大量の人口が漠南・河西・天山地方へ移動
890年	甘州ウイグル王国が成立
9世紀中葉	東部天山地方に西ウイグル王国が成立。以降、天山山脈以南のタリム盆地のトルキスタン化が進行
10世紀前半期	カラハン王朝が成立し、都はバリサグンとカシュガルとなった。
10世紀後半	タリム盆地西部にカラハン王朝が進出し、イスラームを受容。イスラームが西域・カシュガルに入ってきてから以降、400年の仏教徒との戦いで西域全域がイスラーム全民宗教となる

1069年	ユスフ・ハス・アジプの『クタドグ・ビリク『福楽智慧』が、最初のウイグル語による伝承を集約した大作品として完成
1074年	ムハメッド・カシュガルの『トルコ語大辞典』が誕生
1206年	テムジン、モンゴルを統一、チンギスハーンと称して大帝国を形成
1211年	チンギスハーンによる中国遠征、金と開戦
1221～25	チンギスハーン中央アジア遠征。世界帝国を形成
1227年	モンゴル、西夏を滅ぼす。 チンギスハーン死亡
1229年	オゴディが2代目ハーンに就く
1235年	モンゴルが首都カラコルムを建設する
1246年	第3代グユクが即位、わずか2年で急死
1251年	後継者問題での紛争のあと、第4代ハーンにモンケが正式に即位
1260年	クビライがハーンに推挙される。同時期アrik・ブケもモンゴル高原でハーンに推挙され、帝位継承戦争が起こる。クビライが勝利
1267年	クビライが大都（北京）建設に着手
1271年	クビライがモンゴル統治下の東部分（中国）を「大元」とする
1271～74	マルコ・ポーロ（ベネチアのイタリア人）がモンゴル往復・滞在
13世紀はじめ	ウイグルはモンゴルに服属、ウイグル文字は補囚のウイグル学者タタトニアによってモンゴルに伝えられ、チンギスハーン時代に公用文字となった。このころウイグル文字は左から右へ縦書きだった
1513年	仏教徒だったトルファン住民はモグール・ウルスの攻勢で仏教が消滅。仏教徒はハミから漢土にさがる。トルコ化、イスラーム化へ
16世紀前半	16世紀の前半、ウイグルのムカームが完成。ハーン（在位1533－1560）の時代、有名なムカームの師、カディル・ハーンと王妃たちが指揮・整理した。サイディヤ王朝の王妃であったアマンニサー・ハーンの尽力により採集・編集され、十二の組曲として多様な様式、生き生きとしたリズム、豊富な曲調を持った。 伴奏楽器としては、サタール、タンブル、ドゥタール、ラワープ、ギジェキ、ダップなどが使われた
1680年	タリム盆地のオアシスを遊牧民族のジュンガルが征服
1871～ 1959年	トウルディー・アーフン・アーカーなど最も有名なムカームの師が加わった。
1740年	ロシアが最初の探検隊を西トルキスタン（中央アジア）に送る
1759年	清朝がジュンガルを征服。大虐殺があった
19世紀半ば	西北ムスリムの反乱。10年に及ぶヤクープ・ベグの統治
1860年	リヒトホーフエンが中国・東トルキスタン調査を開始
同 年	北京条約、ロシアが清から沿海州を割譲。英・露がカシュガルに領事館設立を認めさせる
1870～85	ロシアのプルジェワルスキー、東トルキスタンを5回に渡って探検

1871年	ヤクーブ・ベク、イリ地域を除く東トルキスタンを掌握し、独立政権を樹立
1871年	プルジェワルスキーが中央アジア探検を開始
1876	プルジェワルスキーがロプ・ノールを調査。「ロプ・ノール論争」の端緒となる。浄土真宗本願寺派第22代門主・大谷光瑞生まれる (～1948年)
1878年	清朝が東トルキスタンを再征服。現地人同化政策によって逆に民族的な覚醒を促し、「東トルキスタン定住民は固有の民族である」という概念が形成される
1880年	ロシア領事ペトロフスキーがカシュガルに赴任
1883年	ロシアの探検家コズロフが中央アジア探検を開始
1884年	清朝、東トルキスタン征服ののち「新疆省」を設置
1885年	ロシアがアフガニスタンに進出し、イギリスとの対立＝グレート・ゲームが始まる
1885～87	イギリスの探検隊（隊長スタイン）がロプ・ノールを調査
1890年	イギリスはマカートニーを秘書官とする通商代表部をカシュガルに置く イギリスのパワー大尉が、後に「パワー文書」と呼ばれる経典の断片をクチャで入手。これがきっかけとなり、いわゆる「学術的探検の時代」が始まる
1893～ 1902年	S. A. ヘディン（スウェーデン人）が中央アジア探検を開始
1900～ 1915年	スタイン（イギリス人）、ヘディンらにより楼蘭王国の跡と思われる廃墟を発見
1901年	ヘディンが中央アジア探検を開始、楼蘭故城に至り、漢文文書、カロシュティ文書を発見。このときのロプ・ノール調査が、のちの「さまよえる湖」論争に。 スタインがニヤ遺跡でカロシュティ文書を発見する
1902～04	大谷光瑞らの大谷探検隊が中央アジア探検を開始
1904～ 1914年	ドイツの A. V. ル・コックが中央アジア探検を開始。前後2回の探検を行った
1906年	フランスのペリオが中央アジア探検を開始
1907年	イギリスのスタインが敦煌莫高窟で「敦煌文書」を入手
1908～ 1909年	ペリオが敦煌莫高窟で「敦煌文書」を入手 大谷光瑞の弟子・橘瑞超が西域で探検
同年～09年	第2次大谷探検隊、瑞超が楼蘭で李柏文書を発見する
1910年以降	カシュガル、トルファン、グルジャなどの地域では新しい学校が成立された
1910～14	第3次大谷探検隊が東アジア、中央アジアを調査する

1912年	清朝が打倒されて「中華民国」が成立。楊增新が新疆省都督となる。
1921年	ソ連（現在のカザフスタン）に居住する東トルキスタン出身者の代表者会議で、ロシア人の古代トルコ語学者の提起を受けて民族名「ウイグル」を採用
1931年	ホジャ・ニヤズ・アジをリーダーとしたクムル（ハミ）の農民蜂起。
1931年	南新疆でホータン政権が成立
1933年 同2月11日	11月12日、サウトダモツラの指導下でカシュガルに「東トルキスタン・イスラーム共和国」成立。6ヶ月後に攻撃や内部分裂で崩壊
1934年12月	カシュガルで「Mahmudiya Qizlar Mektibi」＝マフムディア女子学校を創立
1934年8月から 1937年5月まで	カシュガルでウイグル語新聞「yengi hayat」＝新しい生命＝を発行
1935年	「ウイグル」という民族名が公式に用いられ、同時に「維吾爾」という漢字表記も定められる
1944年	4月「東トルキスタン解放組織」がグルジャで成立、9月に北新疆のイリ・ニリカ県でゲリラ活動開始、11月7日、グルジャ市で蜂起
1944年	11月12日までグルジャ市その他を解放
同年4月8日	東トルキスタン共和国政府の民族軍が結成され、天山山脈北側のイリ地区、タルバガタイ地区、アルタイ地区を完全解放
11月12日	「東トルキスタン共和国政府」樹立。49年12月まで存立
1945年	1945年12月16～17日、三区革命政府成立
同年8月15日	日本が連合軍に無条件降伏。アジア太平洋戦争終わる
1946年7月	中華民国政府との「新疆省連合政府」発足
1949年8月	東トルキスタン共和国政府の首脳陣が飛行機事故で死亡。スターリンと毛沢東との国際的な陰謀で殺害されたとのウイグル人の説もある
1949年	10月1日、中華人民共和国成立。 人民解放軍が新疆に進駐。中国共産党の実効支配がスタート。
1954年	人民解放軍が新疆に進駐した際の「西北野戦軍第一兵団」の退役軍人を中心に構成された屯田軍事組織「新疆生産建設兵団」が発足。漢民族人移住のルートとなる。日常は農業、商業や工業生産、建設などに参加しているが、緊急事態に即時対応できるための軍事訓練をする半軍事組織
1955年	中国政府、「新疆ウイグル自治区」を結成
1956年	ウルムチで「東トルキスタン人民党」が蜂起、軍によって鎮圧される
1962年	イリ（グルジャ）地域から5万人以上のトルコ系住民が旧ソ連へ越境・亡命
1964年	ロプ・ノールで初めての核実験。その後の実験で兵士・住民約75万人が被曝。2002年までに計46回の核実験を行った
1966年	毛沢東個人の権威の確立を目的とした「文化大革命」発動。その後、

	10年の動乱。新疆でイスラーム教徒も迫害され、破壊と混乱極まる
1978年12月	中国において画期的な転換となる「改革開放政策」がスタート
1979年	「10年の動乱」といわれた文革終了後、79年から改革開放政策が実質的にスタート。以降、モスクやマザールの再建、ウイグル語表記にアラビア文字の再採用など、一時的な和解政策
1989年	ウイグルの各地でウイグル人学生を主体とする大規模なデモが頻発。 [十二ムカーム研究会]が創立される
1989年6月	天安門事件。学生の指導者がウイグル人のウルケシだったため、ウイグル人に対する弾圧はより一層きびしくなった
1990年	カシュガル近郊で「東トルキスタン・イスラーム党」の反乱・バレン郷事件が発生
1990年代	宗教への管理強化とこれに反対する動きが同時進行
1991年	ソ連崩壊・解体。中央アジア各国でも独立が相次ぐ
1992年	トルコのイスタンブールでウイグル人亡命者による「東トルキスタン民族代表会議」が開かれた
1996年	4月、初めて「イスラーム原理主義団体対策」の名目で上海ファイブが結成された
1997年2月5日	サッカー競技がもとで警察と民衆が衝突。民族差別反対でイリ事件が発生、多くの死傷者が出た。 ウルムチでもバス爆破事件発生
2000年以降	「西部大開発」スタート
2000年以降	ウイグルの教育は大きな転換期を迎え、民族学校が漢語を中心とした教育を受けることとなった
2001年 6月15日	「上海ファイブ」を前身とする「上海協力機構」設立。中国・ロシア・カザフスタン・クルグズスタン（キルギス）・タジキスタン・ウズベキスタンの6カ国による多国間協力組織
2001年	9・11テロ後、「テロ対策」の名目で、新疆のイスラーム教徒にたいする監視・抑圧を強化。パキスタンとの国境クンジュラプ峠封鎖。カシュガル地方で500人が当局に拘束されて、帰還したもの約半数
2002年 6月7日	サンクトペテルブルグでSCO地域対テロ機構の創設に関する協定が署名された。執行委員会書記局は上海に、本部はクルグズスタンの首都ビシュケクに設置
2003年	ウイグルのすべての高等教育機関の授業は漢語によるとの決定
2003年10月	「東トルキスタン・イスラーム運動」指導者のハッサン・マフムスがパキスタン軍によって殺害される
2004年9月	9月14日、ワシントンで「東トルキスタン亡命政府」成立
2004年10月	「世界ウイグル会議」がドイツで成立
2004年11月	「ウイグル十二ムカーム」がユネスコの世界文化遺産に登録された

2005年	ロシアが中国、インドと相次いで共同軍事演習を実施
2005年 1月9日	東トルキスタン亡命政府がトルコのイスタンブールで会議を開催 難民およびトルコ市民に東トルキスタン亡命政府の設立、活動や亡命政府の国会活動などについて報告
2005年7月 半ば	パキスタンのワジリスタン地区でパキスタン政府軍や警察がウイグル人難民の3家族23人を射殺
2007年	上海協力機構に加盟している6カ国初の合同軍事演習を行った。 8月にはビシュケクで行われた首脳会談でテロ組織や分離独立運動など、加盟国に脅威を与える勢力に協力して対抗する長期善隣友好協力条約など8条約に調印した。アフガニスタンのカルザイ政権は「アメリカの傀儡」であるとされて、加盟を拒否されている。
2007年	少数民族の漢語（漢字）教育を小学1年生から始めるなど、よりいっそう厳しい措置をとった。同時に「双語教育（ウイグル語と漢語）」もスタート
2007年3月	アメリカ・ワシントンで第1回世界ウイグル女性会議。
2008年	北京オリンピックの聖火リレーで国際的な動きが顕著となる
2008年	2008年3月23～24日、ホータンで女性のデモが報道された
	6月16(17～19)日、北京オリンピック聖火リレーがウイグル地区を回る
	6月15日、日本ウイグル協会が創立され、イリハム氏が指導者となる
	7月9日、ウルムチで、テロリスト(terrorist)という名称で15人の若者が包囲され、5人が撃たれて死亡、2人怪我、他の若者たちは逮捕されたという
	8月4日、カシュガルでウイグル人2名が国境警備隊と衝突し、16人が死亡、16人が怪我と報道されたが、9月末、アメリカの報道では、これはデッチあげで警官同士の銃撃が原因と発表。
	8月10日、クチャで容疑者10人を含む12人が死亡。この中に15歳の2人の女性がいた。
	8月12日、カシュガルのシュール県で、検問所が攻撃され、3人死亡。
	7月21日、ドイツ・ミュンヘンで第2回ウイグル世界女性会議が開かれる
6月17日	新疆ウイグル自治区のウルムチ、カシュガル、石河子、昌吉でオリンピック聖火リレーを実施。住民には沿道に近づかぬよう、商店などは休業せよと命令して、当局の指定した住民のみが沿道で「激励」の旗振り。

☆ ウイグル民族の起源はモンゴル高原にあるが、ウイグルはスキタイ、匈奴、突厥、ソグドやモンゴルなど多くの民族や人種が混交して形成されたため、それらいくつかの民族の歴史概略をひとつの年表として、日本シルクロード文化センター代表・野口信彦とグリ・アルズグリがまとめた。